

# 資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



### 『日本のインフラ危機』

岩城一郎著

講談社発行

2025年12月/1,056円（税込）

所蔵箇所：信濃町

交通機関の効率的な役割分担や連携を追求するうえで、その基盤となる道路やトンネルの健全性は不可欠な前提条件である。しかし現在、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが老朽化し、各地で道路陥没や橋梁の損傷が顕在化している。本書は、コンクリート構造物の専門家が、切迫する「インフラ危機」の実態とその再生に向けた具体的な処方箋を提示した一冊である。

著者はインフラを人体に、メンテナンスを医療になぞらえ、構造物の「健康寿命」を延ばすことの重要性を説く。特に4章で触れられるアセットマネジメントの視点は重要だ。重症になってから橋を架け替えるのではなく、こまめな「予防治療」を施して長寿命化を図ることこそが、トータルコストを抑制し、限られた予算（投資）を最も効率よく運用する道であると論じている。

崩れゆく社会基盤と行政の限界を前に、我々はどう向き合うべきか。本書は、地域住民が簡易点検に参加する「協働」の事例などを通じ、インフラ維持を「自分ごと」として捉え直すための指針を示している。（原）

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『モーダルシフト推進の手引き』

運輸省運輸政策局複合貨物流通課監修，物流研究会編著

大成出版社発行

1995年2月

所蔵箇所：上野（一般公開中）

2026年4月、「改正物流効率化法」が本格的に施行される。本書は、1990年代に運輸省が物流効率化の重要施策としたモーダルシフトについて解説し、その意義や成功事例を紹介している。

ここでのモーダルシフトとは、より環境にやさしく効率的な貨物輸送を目的とし、幹線貨物輸送を自動車から鉄道・海運へ転換することを指す。背景にあるドライバー不足、道路混雑、環境問題等に対応するための施策だ。本書の特徴は、豊富な事例と分かりやすい紙面構成である。モーダルシフトを推進した事業者から導入までの手順や輸送コスト・所要時間・ドライバー数の変化等を聞き取り、一目で比較できるよう図示している。

こうした考え方はすでに1981年の運輸政策審議会答申に「効率的省資源低公害型物流体系」として示されていた。さらに、複数のモードによる一貫輸送については、1974年に鉄道と自動車の協同一貫輸送の検討が同審議会物的流通部会から報告されており、1969年の運輸経済懇談会報告からも読み取れる。これらの資料はすべて資料室で保管している。ぜひご覧いただきたい。（田邊）

## 資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

